

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**《現状》**

○学校…基礎的基本的事項の徹底を重視し、学力の向上に努めている。特色ある教育活動として、伝統的文化活動を積極的に進めている。

○児童…明るく素直な児童が多く、地域・PTA行事にも意欲的に参加している。家庭と連携しながら、基本的生活習慣の定着に努めている。

○教師…日々の教育活動に熱心に取り組んでいる。若手教員が多いため、校内OJTを充実させ、研究・研修を通して、指導力の向上を図っている。

○地域・保護者…創立114年の伝統が、地域の大きな力に支えられている。PTA活動も活発であり、開かれた学校づくり協議会、放課後子ども教室、各種ボランティアなど、学校教育への理解が厚く、協力的である。

《成果と課題》**○学力向上**

学力向上委員会を中心として、全校で基礎学力の向上を図ってきた。基礎的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導の充実がなお必要である。日々の授業改善と、教師の指導力の向上が求められる。「小中9年間を見通して」をサブテーマにした小中連携による共同研究を進めてきたが、教科の系統性や指導法の共通理解を一層深めていきたい。

○体力向上

パラリンピアンや縄跳び名人などのトップアスリートを招いての模範演技や実技指導は、児童の運動に親しむ意欲を高めた。ミニバスケットやサッカー、長縄チャレンジ等、活発に取り組む姿が見られ、足立区小学校水泳大会でも、男子の部優勝という成果を収めたが、全校としての体力テストの結果は伸び悩んでいる。休み時間の校庭遊びを奨励するなど、運動経験の二極化を解消していきたい。

○家庭・地域から信頼される学校

「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止や早期発見、迅速な解決に組織的に取り組んできた。防災・安全教育の充実へ向け、関連機関との連携の下、計画的に指導を行ってきたが、廊下での児童同士の事故や自転車での交通事故も起きた。学校内外の生活上のルールの徹底をさらに図っていききたい。体験活動や特色ある教育活動を、家庭・地域からの協力を得て、活発に行うことができた。特に将棋や百人一首、落語など伝統的文化に触れる活動は、本校の特色ある活動として定着してきている。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 学力向上**

目標実現に向けた取組みとして、「基礎的な内容の理解の徹底」「中学校との合同研究」「教員の指導力向上」「体験的活動の充実」をあげ、学力の向上を目指した。

重点的な取組事項－2 健康な心身の育成

目標実現に向けた取組みとして、「挨拶の励行」「いじめの根絶・不登校の解消」「体育的活動の充実」をあげ、健康な心身の育成を目指した。

重点的な取組事項－3 保護者・地域との連携

目標実現に向けた取組みとして、「保護者による年間2回の学校評価の実施」「PTA・地域行事等への教職員の参加」「幼稚園・保育園との連携」をあげ、保護者や地域との連携を目指した。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上

「授業力向上校」の指定を受け、学力向上委員会を中心として、全校で基礎学力の向上を図ってきた。基礎的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導の充実がなお必要である。日々の授業改善と、教師の指導力の向上が求められる。小中連携による共同研究を進める中で、教科の系統性や指導法の共通理解を深めてきた。体験的活動の一層の充実を通して、基礎的事項を児童が主体的に活用する学習を目指していきたい。

重点的な取組事項－2 健康な心身の育成

挨拶を重視して、あたたかな人間関係を育ててきた。児童は全般的に明るく元気に生活しているが、些細なことからのトラブルもあり、思いやりの心をさらに育てていきたい。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には全校で共通理解を図りながら、組織的に対応するよう努めた。運動好きの児童が多く、年間を通じた体育的活動や区のスポーツ大会での活躍も見られたが、体力テストの結果は全校的に低い。運動経験の二極化に対応した日常的な運動の場づくりが必要である。

重点的な取組事項－3 保護者・地域との連携

P T Aや開かれた学校づくり協議会の行事も活発に行われ、教員も積極的に協力できた。学校便りの形式を変えて学校からの情報の発信を重視したが、学校評価アンケートの回収率には反映しなかった。評価結果の返し方にも工夫をしていく。地域内の幼稚園・保育園とは、積極的な交流を行うことができた。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

年間を通じた本校の教育活動に対してのご理解・ご協力に深く感謝いたします。子供たちの安全で安定した学校生活は、家庭と地域の支えなくしては成り立ちません。P T A・開かれた学校づくり協議会・放課後子ども教室・図書ボランティア・学習支援ボランティアなど、様々な保護者・地域の皆様のおかげで、子供たちは毎日健やかに学び、成長してきました。

また課題を早急に把握し、学校改善に迅速に取り組むことができるよう、今年度も年2回「学校評価」アンケートのご協力をいただきました。実施初年の昨年度の回収率が平均65.7%だったため、今年度は平均70%を目標にしましたが、残念ながら逆に昨年度を下回ってしまいました。学校づくりに参画するという意識を、ぜひ保護者の皆さんにもっていただけるよう、趣旨を改めてアピールしていきたいと考えています。

また今年度は児童の生活指導上の課題など、学校の力だけでは解決できない問題について、P T A・開かれた学校づくり協議会委員の皆様にも多大なるご助力をいただきました。児童も安心して学習に取り組むことができ、まさに「チーム瀏江小」の頼もしさを感じることができました。来年度は、創立115周年の節目の年となります。保護者・地域の皆様から愛され、誇りとされる学校づくりをさらに目指して努力してまいりますので、引き続きご支援をお願いいたします。

2. 平成27年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全校で、基礎的・基本的内容の定着に向けた授業改善と、学力向上に関する取組が計画的になされていること。	区学力調査 通過率国語72%、算数75%	・4月実施調査では、通過率 国語73.4%、算数75.5%。どちらも達成基準を上回った。	・次年度4月の学力調査に向けて、本校児童が苦手とする内容の克服を図る。個への対応、全校的な学力向上への取組をさらに重点化していく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎的な内容の理解の徹底	区学力調査、年度末の目標通過率90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導の徹底 基礎基本の時間「けやき教室」年間30回・学習支援ボランティアの活用 ・パワーアップタイムの充実 国語・算数・読書(週3回20分間) ・放課後けやき教室の充実 個別指導による補充学習(週1～2回) ・そだち指導員制度の効果的実施 学力ポートフォリオの活用 ・夏季休業中の補充学習(10日間) ・漢字検定への取組(年2回) 	基礎的基本的な内容の定着を重視した授業改善を進めた。また、パワーアップタイムやけやき教室のさらなる充実に努めてきた。1月に実施した再調査では、全校の目標値通過率平均が、86.5%となり、成果が見えてきているが、達成基準には届かなかった。指導を継続して、次年度の調査に結果を出したい。	授業規律を重視し、指導法や教材の工夫により、児童の学習意欲を引き出していく。SP表の分析やポートフォリオの活用を通して、さらに個に応じた指導を充実させていく。学習ボランティアの協力を得て、けやき教室の習熟度別指導の徹底を図る。	○
中学校との合同研究	合同研究会を10回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> ・合同学習指導案作成研究会(7分科会別・4回以上)。 ・合同研究授業(7分科会別・2回)。 ・相互公開授業・全体協議会(4回以上) 	足立区立渕江中学校との合同研究会では、教科別に7分科会に分かれて研究を進めた。前期は中学校、後期は小学校において研究授業を行い、事前の合同指導案検討会をそれぞれ2回実施した。校内研究授業の公開を通し、近隣小学校との連携も図った。	小中合同の指導案検討に、各教科毎の取組の深まりが見られた。さらに児童・生徒の生活指導上の相互理解も加えながら、9年間を見通した指導の改善を図っていく。	○
教員の指導力向上	授業研究・研修会を15回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招聘しての校内研究授業(8回) ・年次研修への全員参加(1～4年次) ・若手研修会(経験6年目以下) ・足立スタンダード、MIM研修会 ・区小研への全員参加 	主に本校に配置された学力定着指導員を講師として、各学年・専科による校内研究授業を8回実施した。指導員には単元を通して助言を受けた。主任教諭を中心に、若手研修会を計画的に行った。	主に国語を通して全教員が授業の基本について学ぶことができた。さらに様々な教科の授業研究を通して、より指導力の向上を図っていく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体験的活動の充実	各学年2回以上、学校全体3回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育（各学年1回） 外部人材の活用（ゲストティーチャー） 伝統的文化に触れる活動（落語・将棋・百人一首・狂言等） 	国際理解教育全学年実施。落語、将棋、百人一首等、20回以上の講座を開催した。理科や社会、総合的な学習において、外部機関やゲストティーチャーによる学習を各学年実施した。	P T Aや開かれた学校づくり協議会の協力を得ながら、落語、将棋、百人一首などを、特色ある教育活動として位置づけ継続していきたい。	○

重点的な取組事項－2 健康な心身の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他を認め、尊重する態度、あたたかな人間関係が、各学級を基盤に定着していること。年間を通じた体力向上へ向けての取組が積極的になされていること。	学校評価アンケート「児童の様子」の肯定的評価90%以上。都体力調査、全学年男女都平均以上か同程度。	学校評価アンケート「児童の様子」の肯定的評価98.1% 都体力調査、都平均以上か同程度の学年が、男女ともに6学年中2学年のみ。	全体的に児童は明るく生活しているが、友達同士のトラブルも多く、思いやりの心を育てる根気強い指導が必要である。体力面でも、運動経験の二極化が見られ、基礎体力の全校的な底上げが課題となっている。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
挨拶の励行	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 登校時や来校者への挨拶の徹底。 家庭・地域への働きかけ 	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価78.4%	挨拶とともに、返事や言葉遣いを年間を通じた重点的な指導事項としていく。	△
いじめの根絶・不登校の解消	全校体制としての課題の早期発見・組織的対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策委員会、特別支援校内委員会の活性化 スクールカウンセラー・関連機関との連携 	教職員による生活指導上の情報交換を毎日行い、対応の共通理解を図ったが、いじめ行為の根絶、不登校傾向の解消には至らなかった。特別支援校内委員会はほぼ毎週行い、スクールカウンセラーとの連携がとれた。	学級・学年を基盤に生活規律を徹底させ、人権教育の充実を通して、あたたかな人間関係を育成していく	△
体育的活動の充実	業間における体力向上への全校的取組、年間4回以上	<ul style="list-style-type: none"> 長縄・短縄・マラソン月間 校庭遊びの奨励 	長縄・短縄と持久走の体力向上週間を、計4回実施した。特に、長縄は、各学級が競って取り組み、2学級が区の長縄チャレンジ表彰を受けた。	校庭遊びをより奨励し、体育的活動との関連を図りながら、各運動の日常化を進めていく。	○

重点的な取組事項－3 保護者・地域との連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校・家庭・地域の中に、「家庭・地域と共に育つ学校」という共通意識がもたれていること。	学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価85%以上	学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価 77.5%	「連携について」アンケート回答の「わからない」が10%を越える。情報の発信が重要である。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者による年間2回の学校評価の実施	2回の学校評価アンケートの平均回収率70%以上	・夏休み前・冬休み前の年2回アンケートの実施。変容の分析と課題への迅速な対応・改善	学校評価アンケート回収率 前期60.8% 後期63.4% 平均62.1%	評価がマンネリ化しないよう、改善点が見えるように発信していく	△
P T A・地域行事等への教職員の参加・協力	全教職員が年間2回以上いずれかの行事に参加	・P T Aまつり、地域行事、開かれた学校づくり協議会活動等への計画的な参加	P T Aまつり、スポーツ、地区対、町会等の行事に、教職員のほぼ全員が2回以上参加した。	教職員の意識をより高めるとともに、無理なく参加できる体制づくりをする。	○
幼稚園・保育園との連携	2幼稚園・1保育園との連携活動の推進	・公立保育園への全員参観、交流活動、行事への参加、教員の交流研修等の計画的な実施	夏季休業中の全員参観、運動会・学芸会の練習見学、交流活動、教員の交流研修等を予定どおり実施できた。	連携保育園が来年度から民託化されるが、引き続き連携を維持していきたい。	○

3. 学校活動全般について

<p>○学力の向上 区の「授業力向上校」の指定を受け、児童の基礎的・基本的な学力の定着を目指してきた。発達段階に応じて身に付けたい学力をしっかりと習得し、活用していくことができるよう、学校を真の『学舎（まなびや）』としていく。</p> <p>○豊かな心とあたたかな人間関係の育成 人間関係の基本である挨拶について、年間を通して指導してきた。またいじめについては、「いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止、早期解決に努めてきた。協力や思いやりの心が、学校全体として育ってきたが、挨拶の声もまだ小さく、日常的な児童同士のトラブルや乱暴な言葉遣い、廊下を走り回る姿などもまだ見られる。学級を基盤とした規律の確立、学校生活のルールの徹底、全校児童を常に全教職員で見守っていく体制をさらに継続していく。</p> <p>○特色ある教育活動の実施 日本の伝統的文化に触れる機会を積極的に設けた。将棋教室（土曜教室・水曜道場・サマー教室）、百人一首教室、落語教室、俳句（一茶まつり）などを、年間を通して実施した。中でも、将棋と百人一首では、区の大会にて好成績を得た。校内での位置づけをより明確にしていく。</p> <p>○特別支援教育の推進 特別支援学級設置校として、通常学級との相互交流を活発に行った。また都と区の2名のスクールカウンセラーや関連機関と連携しながら、通常学級内における特別な配慮を要する児童への支援を行った。次年度開設の特別支援教室へ向けての準備を、計画的に進めた。</p>
--